◎ 京都 3.8m 望遠鏡の現状（長田）

Q. フルスペックでのファーストライトはいつ頃になりそうか？

A. H25, H26 年度あたりにはできれば。しかし実際には試験などやってみないと分からない面もある。新技術望遠鏡ということで、ベストエフォートで頑張りたい。

Q. 2つのミラーの位相合わせがうまくいっているということだが、実際には観測中にミラーが動いていく中で合わせていく訳で、それはどうするのか？

A. ゆっくりした **tracking** などでは問題にならないだろう。望遠鏡を振ってから何秒待たないと安定しないかが問題。数十秒後に観測可能になればよいが、なかなか収束しないと大変。やってみないと分からないところ。

Q. 実験ではレーザーを使っているが、実際には星を使うのか？

A. レーザーは位相センサーの原点を調べるためのもの。望遠鏡が安定してくれば、観測前に一度やればよくなるのでは。

◎ 京都 3.8m 望遠鏡運用の見通し（太田）

Q. 大学間共同運用の可能性があるので共同利用 50%にはならないという話と、天文台が経費の 50%負担という話は矛盾では？

A. 共同運用という話は言い初めて 10 年たつが、どこも手を挙げないので実際には共同利用 50%という線になるのかもしれない。それに、1ヶ月分の運用経費を大学に出せというのも現実には大変。

Q. インフラというと、水道電気や宿舎関係の部分も含むのか？

A. 基本的にはそれら全てのうち半分を京大、半分を天文台で。でも元々は 3.8m 望遠鏡運営費の半分を京大が負担という話だったはずなのだが、総額部分が以前より増大しているような…。

◎ 面分光装置（尾崎）

Q. 高速分光装置と面分光装置以外の装置計画は？

A. 京大としては望遠鏡で手一杯というのが現状。装置の検討や提案、開発などを外部の方に手を動かしていただいてどんどん持ち込んできていただきたい。

Q. 今検討されている装置が 2 つで、望遠鏡の焦点はナスミスが 2 つ。各ナスミスに装置はいくつまでつけられるのか？

A. 2 つあるナスミスのうち片方には補正レンズ系をつけて 1 平方度を見られるようにし、ファイバー多天体分光器をつけたい。もう片方にしか **guider** をつけない。一つの

ナスミス台は 1 m×2 m くらいの大きさ。そこにいくつ装置が乗るか次第。

Q. そうすると、**fiber** 分光器がつかない側に高速分光装置と面分光装置をつけるということか？

A. 面分光装置はユニットの話なので、そんなに場所を取らないだろう。

C. 半分の時間が共同利用となると、この 2 個の装置だけでいいのか、汎用装置も必要なのではという議論もあるべきでは。共同利用装置を NAOJ に作れ（費用の面倒を見よ）という話もありえるのではないか。

Q. GRB が出てから面分光開始までにかかる時間は？

A. 望遠鏡が反対側から動いてくるとして、目標は 1-2 分。架台が軽量なので、望遠鏡が反対側まで回るのは 1 分でよいが、鏡が安定するまでにかかる時間が不安なところ。

Q. 面分光装置は装置 **rotator** に組み込まないと無理なのでは？

A. 装置 **rotator** の議論はこれから。

Q. レンズを使ったマイクロレンズアレイでは色収差が必ずあるので、**fiber** ごとにばらばらに光が入ってきて、キャリブレーションが大変そうだが？

A. 対策はいちおう考えてはいる。

◎ 議論：京都 3.8m 望遠鏡計画全体について

Q. いま OAO74 にある装置で京都 3.8m につけられるものがあるのかどうかについて知りたい

A. KOOLS は F8.6 までの光をケラレなく受けられるが、京大望遠鏡は F6 なので無理。でも主鏡が内周だけの段階では F10 なので、その段階でのファーストライト装置として KOOLS を使いたい。でも、**rotator** がつかないから視野がぐるぐるまわってしまうが。

HIDES は、像が倍になってしまうので光の半分がケラれる。HIDES は安定性が重要なので動かしたくない。**fiber feeding** でも FRD など効いてきそうなので、きちんと評価が必要。

ISLE は、F が合わないので京大 3.8m 望遠鏡では使えない。